重点領域研究支援事業の実施

本学では、学問の自由の理念に則り、21 世紀社会の多元的な問題解決に寄与し、人類普遍の真理の探求と知の創造に努めることを学術・研究の目標としている。この目標の下、基礎研究とそれを踏まえた応用的・実学的研究の両方を重視するとともに、1つの学部に広範な専門分野を包摂する単科大学としての特性を活かし、総合的・学際的研究の推進を図っているところである。また、「新しいビジョン2030」の研究ビジョンにおいては、産業界や他大学等との連携によるグローカル研究を強化・発展させることを目標に、北海道が抱える諸課題に対する多様な研究アプローチの提示、産業界・自治体が抱える具体的な問題に対するソリューションの提供等を成果として求めている。

令和7（2025）年度からスタートさせた重点領域研究支援事業は、上記の基礎研究と応用・実学研究、そして総合的・学際的研究をより一層発展させ、全学的に研究者が集結して研究する体制の構築および研究ビジョン2030 の実現を目指して重点的に研究費を配分し、中長期的な観点から、本学の学術・研究における各専門分野の強みを見出し、国内はもとより、国際的な本学のプレゼンス向上を目指すことを目的としている。

社会科学で挑む地域課題：途上国における農村開発と北海道における地方創生

（研究代表者：経済学科・教授　松本　朋哉）

【研究の目的】

本学において、社会科学の知見を用いた地域発展のための政策ツールの開発、その効果の検証および社会実装するための専門家集団の形成を目指すことである。また、活動を通じて同集団の発展、継続を担う若手研究者の育成にも重点を置く。地域固有の課題に対し社会科学の知見を用いて、現状を理論的・実証的に分析することで、地域のニーズにあった有効な解決策を提案すること、また、そうした事案を積み重ねることで、本学でそのノウハウを蓄積し、中長期的に実学志向の専門家集団を育成し地域課題に取り組む体制を構築する。

地域社会におけるツーリズム・サステナビリティの実現に向けた多角的ステークホルダー認識の研究

（研究代表者：商学科・教授　プラート　カロラス）

【研究の目的】

日本の観光地におけるツーリズム・サステナビリティ実現のため、多角的なステークホルダー認識に基づいた課題解決策を提示することである。近年の観光客増加は、地域経済活性化の重要な推進力となる一方で、オーバーツーリズム問題を引き起こし、観光客満足度の低下や地域住民との軋轢を生じさせている。本プロジェクトでは「ツーリズム・サステナビリティ」という包括的な概念を用いることで、観光が地域社会全体にもたらす影響を考慮し、より広範なステークホルダーとの協調を通じて、長期的な視点に立った観光地の発展に寄与する研究成果を目指す。また、観光研究の拠点として、国際的なネットワークを構築することで世界における本学の学術的プレゼンスの向上に貢献する。

